

令和4年度新潟県原子力防災訓練（冬季避難訓練）実施結果

柏崎市危機管理部防災・原子力課

1 目的

国、県、PAZ市村、道路管理者等の関係機関が、積雪時の住民避難を想定し、避難調整や避難経路の除雪等の手順を確認することにより、冬季の原子力災害時における対応力の向上を図る。

2 実施時期

令和5（2023）年2月8日（水）

本部運営訓練：午後1時30分から午後3時30分まで

住民避難訓練：午後6時から午後7時30分まで

3 参加機関

新潟県、内閣府、柏崎市、刈羽村、北陸地方整備局、東日本高速道路（株）、東京電力ホールディングス（株）、除雪事業者、バス事業者、柏崎市消防団 ほか

4 訓練想定

(1) 本部運営訓練

大雪により高速道路や国道の一部で予防的通行止めが実施されている中、長岡市を震源とする震度6強の地震に伴い原子力災害が発生したことから、住民の避難実施に向け、県・市村の災害対策本部、各道路管理者、除雪事業者等が連携し、優先的に除雪すべき避難経路を決定するなどの初動対応の手順を確認する。

(2) 住民避難訓練

積雪期に原子力災害が発生。全面緊急事態に至り、PAZ内の住民に防災行政無線により避難指示が出されたことを想定し、住民がバス避難集合場所に集合し、市職員が受付及び安定ヨウ素剤の配布等を実施した後、避難先へ避難するまでの手順を確認する。なお、夜間停電時の避難を想定する。

5 訓練項目及び参加者数

訓練項目	訓練会場	参加者数
柏崎市災害対策本部運営訓練	市役所3階災害対策本部会議室	市職員6人
PAZ 荒浜地区 住民避難訓練	荒浜コミュニティセンター	住民19人 市職員8人

6 訓練スケジュール

【緊急事態区分：警戒事態（AL）、施設敷地緊急事態（SE）、全面緊急事態（GE）、OIL（放射性物質放出後）】

緊急事態区分	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
柏崎市災害対策本部運営訓練			警戒事態（AL）				
			本部運営訓練 ●TV会議			訓練終了	

緊急事態区分	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00
PAZ荒浜地区 住民避難訓練 (荒浜コミュニティセンター)				全面緊急事態（GE）			
	●職員出動	●コミセン到着		●避難指示 ●受付、安定ヨウ素剤配布 ●バス乗車			訓練終了

7 訓練の概要

(1) 柏崎市災害対策本部運営訓練

新潟県災害対策本部運営訓練に併せて、県・市村等の連携、手順の理解を重点としたシナリオ型による訓練を実施。訓練では県総合防災情報システムや ZOOM を使用した情報共有を行った。

(2) PAZ 荒浜地区の住民避難訓練

冬季夜間停電時を想定した住民参加による避難訓練を実施した。

会場内外の照明を落とし、原子力災害時避難円滑化モデル実証事業において整備した蓄電池で LED 照明を点灯させ、避難者の受付、安定ヨウ素剤の配布を実施。その後、避難用バスに乗車し、避難先への避難（※）を行った。

※避難先の糸魚川市までは行かず、途中で折り返して訓練終了

8 住民避難訓練等の参加者の主な感想

- ▶ なかなかできない経験ができた。
- ▶ 声掛けや受付の説明が丁寧であった。
- ▶ 「想定外」ということがないように実効性のある計画策定してほしい。
- ▶ 平常時ということもあるが、全体的に緊張感がなかった。
- ▶ 決められていることの確認は意味があるのだろうか。高齢者を含む避難行動要支援者もやらないと分からない。少なくともPAZ全体でやってほしい。
- ▶ 受付の時間が掛かりすぎている。実際の避難時には受付で渋滞すると思う。
- ▶ 受付と安定ヨウ素剤の配布場所が集中しているため、離れたほうがよい。
- ▶ 手順、設備等はよかったと思う。体の不自由な人への対応をどうするのか検討が必要である。
- ▶ 停電時はコミセンへの避難経路やコミセン内のトイレなど不便である。
- ▶ 実際の積雪はなかったが、大雪時にコミセンまでたどり着けるのか、避難ができるのか不安である。

9 訓練で見えた課題と対策

・情報共有手段について

【課題】 昨年に引き続き原子力監視カメラを使用した情報共有を行い、リアルタイムで分かりやすい報告を行うことができた。また、数値での報告は県総合防災情報システムへの入力を行うが、重要な報告依頼については電話連絡もあるため漏れはないが、システムへの表示のみの依頼の場合、表示を見逃してしまうと報告漏れに繋がる可能性がある。

【対策】 避難経路の迅速な把握方法や、県総合防災情報システムへの共有、通知手段の改修など、より分かりやすい情報共有方法を検討する。

・受付の簡略化、効率化について

【課題】 現在の受付手順は、避難者の検温や氏名等の記入があり、一人当たり数分の時間を要してしまうため、実災害時の受付の混雑や混乱が予想される。また、バス避難集合場所に配置される市職員は2人から3人であり、受付、安定ヨウ素剤の配布、災害対策本部等との連絡などを限られた人数で行わなければならないため、受付の効率化や手順の簡略化を図っていく必要がある。

【対策】 例年実施している新潟県原子力防災訓練では顔認証システムによる受付の試行実施など、ICTの活用を行っている。今後も県と協力し、スマートフォンやマイナンバーカードなどを活用したICTによる受付の効率化の検討を進めていくとともに、停電などで機器が使用できない状況における紙媒体等での受付手順の簡略化や効率化の検討を進める。

・ **冬季夜間停電時の避難を想定した照明等の確保について**

【課題】 今回は会場敷地内の明かりを消しての訓練であり、敷地外の街灯は点灯していたため、参加者の会場までの徒歩移動に大きな支障はなかった。しかし、積雪で道路状況が悪く、街灯が消えている場合、特に避難行動要支援者の避難に支障をきたす可能性がある。

【対策】 避難行動要支援者の避難支援において、自主防災組織、消防団との連携を図るために今後も冬季積雪時や夜間など厳しい条件での訓練を継続していく。また、停電時に使用できる照明などの資機材の確保や各家庭における懐中電灯などの非常時への備えの大切さを周知していく。

10 訓練の様子

(1) 本部運営訓練



(2) 住民避難訓練

